

第1回 世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン策定委員会 議事録

日 時：平成28年6月2日（木） 午後6時～午後8時

場 所：世田谷区役所 第1庁舎5階 庁議室

出席者：汐見委員、篠原委員、岡委員、大坪委員、五島委員、正岡委員、島崎委員
小林委員、稲葉委員、佐瀬委員、松谷委員、中山委員、堀委員、岩本委員
工藤委員、中村委員

事務局：大澤正文、石井岳二、池亀雄太（世田谷区教育委員会事務局）

支援事業者：株式会社創建 大谷、氏原

次第

- 1 教育長あいさつ
- 2 世田谷区の幼児教育・保育推進ビジョン策定の取組みについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 討議「世田谷区が目指すべき幼児教育のあり方について」
～「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」が目指すべきもの～
- 5 区民アンケート（案）について

開会

事務局：これより第1回世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン策定委員会を開催します。

私は本委員長が選定されるまでの間、進行を努めさせて頂く本策定委員会事務局の幼児教育・保育推進担当課長の大澤と申します。開会にあたり、世田谷区教育委員会教育長堀よりご挨拶を申し上げます。

1 教育長あいさつ

堀教育長：皆さんこんばんは。まだ明るいですが、もう6時です。教育は夜の会議はあまりやったことがなく、教育が主でこういう会合を開き、色んな方々に参加して頂くのも初めてで、初めて尽くしの第1回の会合です。今回は世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン策定委員会ということで、新教育センターについて、一昨年から検討していました。その中の6本の柱の一つに幼児教育が入り、昨年、一昨年、海外はオランダ、フィンランドで。日本の場合は福井、京都を色々検討しながら視察して来ました。その間、汐見先生、篠原先生のお世話になり、色んなところから手を付

けて勉強して参りました。やはり新教育センターの中の柱というだけでなく、一つの大きな柱として検討すべきではないかということで、昨年来、関係者と話をしまして、本日の第一回の会合になったという次第です。私ども、自己点検・評価に基づきまして点検、評価を独自で行っていますが、学識経験の方に海外の話をさせていただき、日本の幼児教育は遅れていますねと申し上げたところ、遅れているどころではなく、3周遅れだと言われました。その3周遅れをどれだけ早く追いついて行くかというところですが、教育は、20年前自分が受けた教育で教育を語り、その実現は20年後にすると。つまり40年のブランクがあるという話を伺っています。幼児教育はそんなにゆっくりと時間を掛けられないと思っていますので、来年の春まで足掛け2年で皆さんにご議論を頂き、できるところから実現していきたいと思っていますので、色んなご意見を頂きたいと思っています。よろしくお願ひします。

2 世田谷区の幼児教育・保育推進ビジョン策定の取組みについて

事務局：それでは今回皆様方をお願いする世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン策定の取組みについて、簡単に説明します。資料1（仮称）幼児教育・保育推進ビジョン策定の取組みについてをご覧ください。1.背景、主旨は、核家族化や地域のつながりの希薄化など親の子育てに対する不安感や孤立感の高まり、社会性や自立心、基本的生活習慣などの子どもの育ちの課題など、人間形成の基礎となる幼児教育の重要性が高まっています。区においても、第2次教育ビジョンや第2期子ども計画において、保育・幼児教育の充実を掲げており、これまで区内の幼稚園・保育園が培ってきた「幼児教育・保育」を一層充実・発展させていく仕組みづくりが必要となってきました。また昨年7月に開催した世田谷教育推進会議において、本委員会の委員、汐見稔幸先生のご講演からも幼児教育の重要性について改めて認識させて頂いた次第です。次に、世田谷区の乳幼児の状況や課題についてです。区の乳幼児の養育状況をまとめたものが記載されています。概要は、全体の6割の乳幼児が保育園や幼稚園等に在園していて、そのうち3～5歳でみると、約9割の幼児が保育園や幼稚園に在園している。また、保育施設を整備している関係で、保育園への在園率は増えてきているが、3～5歳児は幼稚園の在園率が高い状況。また、約85%の子どもが区立小学校へ就学している。次に就学前における教育・保育の課題としては、幼稚園や保育園などにおける幼児教育・保育の環境や状況の違いなどから区立小学校への円滑な接続の難しさ、保育士不足や幼稚園教員等の若手教職員の比率が高まっていることを踏まえ、教育・保育の質の向上を図るための、新たなしくみでの保育士や幼稚園教員を育成・養成するシステムの構築が必要。あるいは配慮を要する子どもも含め、全ての子どもが安心して幼稚園・保育園で生活が送れる環境

整備。園の保護者や家庭で養育されている保護者に対する家庭教育の支援などを、課題と考えています。このような養育状況や教育・保育の課題を踏まえ、世田谷区における幼児教育のあり方、理念・目標等、また、理念や目標等を踏まえた私立幼稚園・保育園に対する支援をはじめ、保幼小の連携の推進、人材育成など取組などについて検討し、そういったものを内容とした形でビジョンを策定していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

続きまして、本策定委員会及びスケジュールについて説明します。本策定委員会ですが、資料の「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン策定委員会設置要綱」をご覧ください。A4の表裏です。第1条、設置の目的ですが、今後の世田谷区における就学前の幼児教育のあり方や理念・目標、また、幼児教育の充実に向けた取組を検討するために設置をさせて頂いています。また、本会の資料や会議録等については、原則、区のホームページで公開させて頂きたいと考えておりますが、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。公開を原則とします。

次にスケジュールですが、資料2の裏面をご覧ください。横の方です。本委員会ですが、本日の会を含め4回程度を予定しています。その為、限られた時間で議論をお願いしたい為、本委員会では世田谷がめざす幼児教育・保育のあり方やビジョンの骨子を中心に議論をお願いしたいと考えています。具体的な施策や個別の課題等については、専門部会を設置し、検討し、その検討に基づき本委員会で議論をお願いしたいと考えています。資料2の表面をご覧ください。現時点で事務局で考えている体制ですが、本委員会の議論を踏まえ、具体的な施策等を検討する部会として「幼児教育・保育推進部会」を設置し、議論をお願いしたいと考えています。また幼児教育の充実が、小学校、ひいては中学校を含めた義務教育に大きな影響を与えるという視点で、世田谷区では昨年度よりアプローチ・スタートカリキュラムの作成に取り組んでいます。引き続き、年内に作成することを目標に、検討するため、世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム専門部会を設置させていただきたいと考えています。また世田谷区では先程教育長の方からも話がありましたが、33年度を目処に新たな教育センターを設置する計画があります。その新教育センターの機能の一つに幼児教育センターを掲げております。新教育センターの基本構想素案の概要については、資料をつけておりますので、後ほどご覧頂ければと思いますが、その幼児教育センターのいわゆる魂の部分になるのが今回のビジョンと考えております。従って、ビジョンとの整合を図る為に、幼児教育センターの機能等について検討する、幼児教育センター専門部会も設置させていただきたいと考えています。ここまでで何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

なければ、このような形で策定、取組の方行っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは次に委員長の選任に移ります。設置要綱第3条で、委員会は委員長1人を

置き、委員の互選によりこれを定めるとしてありますが、大変僭越ですが、先程ビジョンの策定の取組で触れました、昨年7月の世田谷区教育推進会議の汐見先生のご講演を踏まえ、世田谷でもしっかり幼児教育について考えていく時期にきているという経過もあります。また現在、国の保育所保育指針改定の委員長などされていることから、白梅学園大学学長の汐見委員に、事務局として委員長をお願いしたいと考えていますが、皆様いかがでしょうか。

ありがとうございます。汐見先生、ご承諾頂けますでしょうか。

汐見委員：はい。

事務局：はい。ありがとうございます。続きまして、副委員長の選任についてです。要綱では委員長の職務代理として委員長があらかじめ指名する委員となっております。従って、汐見委員長より委員長職務代理である、副委員長の指名をお願いしたいと思えます。

委員長：早速仕事ですか。今、お配り頂いた設置要綱の、さっきちょっと読んでいたのですが、第3条に第4項、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理するという、このメンバーですね。はい。それではですね、私の代行をして頂くということで、これまで世田谷区のことを中心的にやって来られた教育委員会の長である、堀さんをお願いできればと思います。よろしいでしょうか。

堀教育長：了承しました。

事務局：今、委員長から指名がございました。副委員長は堀教育長をお願いしたいと思えます。最後に先程ビジョン策定にあたり、部会の設置についてご了承して頂きました。部会の委員については、設置要綱第5条で、委員長の指名するものをもって組織するとなっております。委員長より、ご指名をお願いしたいと思えます。

委員長：先ほどの、あれですよ。この図で、全体スケジュール資料2ですよ。それでこの会そのものは4回くらい予定されているということですが、それだけでは細かなことが詰め切れませんので、推進部会、その下に専門部会があるんですが、推進部会を開いて具体的なことについて議論して頂くということで、この推進部会の委員ということですね。あの、申し訳ないんですが、私あまりどなたがどうなっているか分かりませんので、事務局の方でメンバーの選考を、信頼致しますので、お願いできますでしょうか。

事務局：今委員長の方から事務局一任というお話がございました。よろしいでしょうか。すみません、また皆様方にご相談をさせていただきたいと思えますのでよろしくお願ひします。それでは委員長及び体制等のご承認を頂きましたので、ここからの進行を汐見委員長にお願いすると共に、委員長からのご挨拶と、この後の討議のきっかけとして、幼児教育の大切さなどについて、少し委員長の方からお話して頂ければと思います。それでは汐見委員長お願ひします。

3 委員長あいさつ

委員長：先程ご挨拶の中でもありましたが、今全世界的に、日本はちょっと遅れているという話もありましたが、一つ一つの幼児教育の場面で、先生方が頑張っている幼児教育のレベルが遅れているということではないと思っています。社会が日本の保育、幼児教育をどのように位置づけているか、意味づけているか、真面目にそれを応援しようとするその態度や姿勢、予算。そういうものが、残念ながらまだ、たとえば西ヨーロッパの水準にはかなり遅れている、そういうことです。保育とか幼児教育がこれほど大事になってきたのだということを、色々な方々、政界財界全部の方、勿論その国の市民が、それほど大事なものだのだと認識して頂くような、そういうことをめざして行きたいと今改めて感じました。既にドイツ、フランス、イギリス、イタリアなどの西ヨーロッパでは、1997年を境に、自国の教育政策の中で、保育・幼児教育を最重視するという決定を共同で決めました。そして40項目の共通目標をもって、10年毎にチェックということで始めましたが、その40項目のトップが、各国は象徴目標ではなく、国家目標として保育・幼児教育を重視することを宣言すること。というのがあります。残念ながらそこがまだ、日本ではない。消費税上がったらか何とかするとは言いが、そんなこととは関係なく、国の施策のトップにこれからは保育・幼児教育。つまり次の時代を担う人材を、国の責任で、責任をもって育てて行くという、この開始時期を、今までは6歳からだったのを、もっと下まで下げて行かなければならない時代なのだということを宣言して、実際に予算つけてやるということを、ヨーロッパは決めました。そして実際に保育・幼児教育に資する公的なお金は、各国GDPで1%以上とすること、というのが目標になっています。1%は、日本ではGDPは500兆円ぐらいですから、5兆円ぐらいになりますが、日本は今2.何兆円ぐらいしか使っていませんから、今の2倍ぐらいにしなければ、なかなかそこに追いつかない。でもまあ既にそれを目標にするということで、達成している国もあります。その他色々なことで、今子ども、子育て関係ではイギリス、フランス、イタリア辺りは経済的には大変な国もありますが、大体GDPで4%ぐらいお金を使っています。日本は全部合わせて1%ちょっとです。そういうのが、少し周回遅れ、2周遅れってようなことの中身です。その割には頑張っていると思いますが、その中には先生方一人あたりの子どもの担当数は15人以下にするとか、幼稚園・保育園の先生の給料は、資格のある先生であれば小学校の教員と同一にする。日本は私立の幼稚園、保育所が多いわけで、そのために給与体系というのは中々一律で作れないんですが、それが進み、3歳以降は無償にするとか、男性の保育士は2割以上にするとか、色々書いてあります。今、西ヨーロッパの国では3歳からはほとんど全てタダになっています。ハンガリーは去年から3歳から義務教育に切り替えています。北アイルランドでは4歳から義務教育という形で、

どんどん義務教育の開始を下げています。義務教育と無償教育は少し概念が違います。義務教育というのは国の責任、自治体の責任で全て教育をやっていくということですから、相当なお金をそこに注ぐことになります。何故そうなってきたかという、理由は様々説明されていますが、大きくは21世紀というのは、我々が予想していたよりも遥かに大変な時代になっていくのだということ。少しボタンを掛け違えたままずっとやって行くと、22世紀まで続かないようなことも起こりかねない。私たちの世代は色々文明を発達させて頑張ってきたが、逆に副産物として色々なものを起こしてきた。そのことについては解決できないまま、次の世代に委ねて行かなければならない。次の世代はそれを解決しない限り、地球を持続させることがだんだん難しくなっていく。もうすぐ人口は、今70何億のが100億になるわけですが、30億人増えるということは、30億人の食料を毎日、今よりもたくさん提供しなければならないということです。当たり前のように魚をとっていたら、瞬く間に絶滅するだろうと言われていています。そういうようなことが全ての分野で起こってきて、それで資源を奪い合いしないで、上手に平和に22世紀、23世紀に繋げて行く為には、今よりももう一段、実践的で、しかも自分だけ良ければいいというようなことのないような思想だとか知恵というものが必要になってくる。そういうものをどうやって育てるかと言ったら、教育しかないだろうということで、結局教育に最重視、重点を置いて行くという政策に切り替えた。21世紀の一番基本戦略だということ。既に1980年代から教育が大事だ大事だということになって、ヨーロッパは高等学校は全部タダにしました。大学も次第に授業料タダにしよう。それで色々やっている内に、実は教育に投資して一番効率が良い、効果が高いのは、実は保育・幼児教育だということが分かってきたんですね。この間 OECD 関係者と話した時に、OECD の次のスローガンは何ですかと言われてたら、それは0歳からの市民教育だと言います。つまり、私たちが考えているような教育ではなく、21世紀の地球を持続可能にしていく為の、自覚的な主体を市民と言っているわけですが、そういう市民を本当に丁寧に0歳から育てていくということをやらなければ、もう地球はもたないんだよと言っていました。そういう意味で、21世紀を本当に主体的に、新しい知性をもった人間を育てるためには、できるだけ早くから教育していくことが大事だ。ただしそれは文字だ、数だということではないんです。その子の持っている可能性を本当に上手に伸ばして行くような、そういう意味で質の高い教育・保育ということです。もう一つ、そうやって保育・幼児教育が大事になっているにも関わらず、人間が元々育つ基盤であった生活ですよ。長い間、人類、別に幼稚園も保育園も持っていなかったんですが、日本で言うと明治維新なんか担った人達も、別に保育所も幼稚園も行っていない。それでもそれなりに知性を持ったということは、生活の中で一生懸命考えた。工夫した。ちょっと貧しい生活というのは、人間の工夫を要求するんですよ。その中で考える力、工夫する力、デザインする力とか、色

んなものを副産物として身に付けて行きますが、そういう意味で生活が人間を教育します。その生活が大きく様変わりしてきて、私たちが子どもの頃は群れて遊ぶ中で、今日は何をして遊ぼう、秘密基地を作ろうなどと、遊びを創造して行きましたが、そうやって群れて遊んで遊びの知恵を使うような集団は、今日本ではもう見られません。昔はこうやって群れて遊んでいたんだよということを、写真で見るとしかないんです。そういう群れることがなくなった。そして僕らが子どもの頃は家の仕事、家事を手伝うということはいっぱいあったんですが、今そういう社会もなくなった。手伝うことは遊びと違って途中でやめることができないから、ある種責任のある行為で、それをやることで色々なものをまた、身に付けました。自分が家族の一員として役に立っているという感覚も手に入ったのですが、そういうのもなくなっている。だから生活が子どもを育てるといって、その上に意識的な教育があるんですが、そここのところが非常に脆弱になってきたら、やっぱり放っておくと、本当に大丈夫かなというような、家庭の教育する力によって物すごい差が出てしまう。その家庭の教育というところを応援していかないといけないのと同時に、家庭だけでは生活を作り変えることはできないので、やはりそこはもう、社会の力で、かつて生活の中で育てたところを、今度は幼稚園・保育所などで、ある程度意識的に育てて行くしかない時代に入ってきた。それは難しい。かつては、勝手に遊び呆けた中で身に付けたものを、人工的な空間の中で育てて行くわけなので、大変難しい。だから専門性が必要なんだと。ああしなさいこうしなさいとやったら、遊びでなくなってしまう。そういう中で身につくものは少ししかないですね。そういう意味で、難しい時代を迎えるから、教育力を高めなければいけないと。同時に、その教育が成り立つ基盤が変化してきたために、もっと早期から始めなくてはならない。色々なことが重なって、今保育とか幼児教育に本当にお金を注いで、そこから丁寧にやっていくことが未来を保障するのだということになってきています。私は、そういう時代に移り変わってきて、皆がやっと気がついてきて、そういう風になってきたということをして、とても、ある意味では嬉しいと感じています。私は、教育の世界でやっていて、保育・幼児教育を言ったら、あいつ何やってるんだとずっと言われてきたので、そこが大事なのだと言ってもなかなか理解してもらえなかったのが、ようやく変わってきたので。それを国家で、国で頑張ってもらいたいし、そういうことについて私たちは発言し続けなければならないんですが、何よりこういう基礎自治体のところで、皆で知恵を出し合って、子どもたちが未来をしっかりと担えるような、その基礎となる力を、皆の力で本当に幼い時期から丁寧に育てて行く、そのための知恵を交換しあったり、制度を設計していったりというようなことを、足元から組み立てて行くということをして、世田谷区が頑張ってもらいたいし、ということで。私、とても忙しい人間なんですが、こういう仕事を手伝ってもらえないかと言われた時に、やっぱり一つモデルを作りたい。保育・幼児教育で一番皆で

頑張っているところの一つは世田谷区だよと、全国に言わせたい。そういうことがあり、お手伝いさせて頂く気持ちになりました。是非皆さんの知恵と情熱で、世田谷区の人たちは本当にしっかり育ててるよね、というような、そういう自治体になるよう、なんとか形を作って行ければと思っています。よろしくご協力お願いします。

4 討議「世田谷区がめざすべき幼児教育のあり方について」 ～「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」がめざすべきもの～

事務局：委員長ありがとうございました。それでは討議に移ります。本日は初回ですので、まず皆様方から自己紹介をお願いしたいと思います。その際、幼児教育・保育について、あるいは世田谷の現状でも構いません。今の委員長のお話に対する感想や、あるいは幼稚園・保育園についてなど、簡単にお話をして頂ければと思います。一通り終わったところで、本日は世田谷の幼児教育・保育がこんな風になればいいな、こういうような子どもに育てて欲しいな、などについて、自由に意見交換をお願いしたいと思います。意見交換の際の参考資料としまして、資料3及び資料4をお配りしておりますので、こちらをご参考にして下さい。時間は約1時間、7時半くらいを目処をお願いしたいと思います。自己紹介ですが、時計回りでよろしくをお願いします。

委員：よろしくをお願いします。今回ビジョン策定委員会ということで、昨年、一昨年でしたか。世田谷区の幼児教育については色々関わらせて頂いておりましたところ、ビジョン策定委員の方も、というお話を頂き、すごく光栄に思いました。今、委員長がお話し下さいましたが、やっと幼児教育に日の目が当たってきたかなと思っていますし、やはり生きる力の基礎は幼児期から作られます。私の知人が世田谷区に住んでいて、今4歳の男の子を育てていて、相談を受けました。幼稚園でクラス替えがあって、4歳のクラスになったら友だちが作れない。一体どうしたものかという相談でした。その時に、色んなサポートの仕方がありますが、実は幼児期というのは自分の好きなことを見つけるのがとても大事な時期なので、その子が好き、夢中になれるものを何か見つけるというところから、その子の核になる部分ができるから。親はどうしても友だち友だち、うちの子友だちできないからどうしようって。まして、行きたくないなんて言い出したりすると、本当に困ってしまう。でもそうではなく、その子が1人でも夢中になって遊べるものがあるということがとても大事な、という話をアドバイスしたら、「ああ、そういえば我が子の好きなものに気が付かなかった」と言うんです。いつも親がああましよう、こうましようと言って連れ回っていて、子どもが何かに夢中になってというものに、そういえば自分は気がついていなかったというところで。あ、そういうサポートをする場

というのが必要なのかと思いました。やはり専門家として、その子の人生を組み立てていく上で、何が基盤になるのかというところを、伝えることが重要なのではないかと思います。もう一つ、孫がもうすぐ4歳になるのですが、ついこの間山に連れて行ったら、面白かったんです。風が吹くとゴーツと音がして、ザワザワザワと葉っぱが揺れるんです。そしたら、「パパ、ネコバスが来た」って言うんですね。今度、ホーケキョケキョケキョ...、ずっとケキョケキョいってるんです。「パパこの小鳥さん、随分長いことお話してるね」とか。やっぱりそういうなんというか、あ、この子の感性素晴らしいという、ババが自分でのろけましたが、この子ってすごい力持ってるなと思ったんです。そういう時に、一緒になってその子の思いに共感できるような、周りの大人の存在というのが、とても大事なんだろうと思うんです。実は火おこしも一緒にしたりしたんですが、そういう、先程も環境の話がありましたが、環境を大事にできるのにはまず自然との対話が大事だと。世田谷にはプレーパークというとっても有効な場所もあります。そういう世田谷の財産を活かしながら、それを小学校以上ではなくもっと幼い時期から、それこそ0歳から活用していけるような、場面ができると良いのかな、と思っております。どうぞよろしくお願い致します。

委員：よろしく申し上げます。私が委員としてここに召集された経緯は、恐らく世田谷区が作成した、『保育の質ガイドライン』との関係だと思っています。

改めて確認するまでもないのですが、世田谷区は全国1待機児童が多い自治体として有名です。それでも、親御さんが行政に対して不服の訴訟を起こすような事態にはなっていません。それは、世田谷区がこれまで、保育の質を護る、ということに誠実に取り組んできたからなのだと思います。それは保育所の設置審査を行っていても常に感じているところです。自治体が、こうしたガイドラインを独自に策定するということは、おそらく非常に珍しいことでしょうし、その意味で非常に先進的な取り組みなのだと思います。

さて、先ほど配布された資料を見ると、世田谷区における幼児教育の現状についてですが、5歳児について「家庭・その他」が、今年で7.6%、昨年度は6.5%いることがわかります。この内訳について、もちろんいわゆる「リスク」が非常に高い、親子もいるのかもしれませんが、もしかすると幼稚園でも保育園でもない、インターナショナルスクールのような、非常に裕福な、子どもにお金のかけられる家庭の方たちだったり、教育熱心な親御さん家庭があるのかなと想像しました。世田谷という地域性における家庭状況の層の広さというところがこういう所にも現れているのかなと思いました。

先程委員長の方からも、お金をどういう風にかけていくのか、というお話がありました。当然世田谷区においても財源には限りがあるわけです。限られた財源の中でお金をどのように有効に投資していくのかというようなことが、具体的な施策の

レベルとして展開されていくのだと思います。その意味では、幼児教育・保育にお金をかけていきましょう、そのためにお金をかけるための基本的な理念をビジョンとして策定しましょうということを、今、という時期にこそやられていることに対して、非常に敬意を払いたいですし、率直に凄いなあと思っています。と同時に、それが今後に対してもどのようなものに具体的になっていくのか、ということが非常に重要になってくるのだらうと思っています。

理念がなければ事業も具体的な施策も出てきません、一方で、いかに立派な理念だったとしても、それが抽象的な理想論でしかなかったら、具体的な質の高い保育の実現は不可能になります。具体的に何をやって行くのか、という所を見据えた上での理念というところが語られて行くことがすごく大事だらうと個人的には思い、身の引き締まる思いの中で取り組ませて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

委員：今ほどご挨拶された3名の先生方とは少し毛並みが違い、美術大学の者です。ただこのプレパークの関係者に、相当数うちの関係者がおります。日曜日も活動したのですが、本学に「アトリエちびくろ」という学生サークルがあり、これは就学前のお子さんはお預かりしていないのですが、小学校1、2年生を中心にして毎月120人くらい、学生たちも50人くらい集まって、ただひたすら遊ぶサークルです。学生の方でテーマは用意するのですが、今週の日曜日は泡でした。洗剤を持ってきて泡をどんどん泡立て機で作って、その泡で遊ぶ活動です。子どもたちは大興奮になりました。私がチェックしているのは教育的目的とかそんなものではなく、ただひたすら安全性だけです。それをもう、50年続けています。ただ50年続けてきてちょっと問題なのは、学生たちの方に基本的な、ものに対する、あるいは安全性に対する意識がやはり薄くなってきています。これはものをつくること、表現することを中心にして学んでいる学生たちにしても、かなり低下しています。先程委員長のお話の中にありましたように、生活力そのものが低下してきています。その上においてこれから日本はものづくりでなんとかして行かなくてはいけないといっても、やはり基礎のところはかなり脆弱になっているのは間違いないと思います。この世田谷は我々アート系の間から見ますと潜在的にやはり文化レベルの高い地域であると思います。そこのお子さんたちをどうやって育てて行くのか。奥多摩にあるような自然はないかも知れないですが、文化という風土の中でこういった幼児教育が可能なのか、是非そこを皆さんのご意見を聞きながら考えて行きたいと思っています。よろしく申し上げます。

委員：公益社団法人世田谷区私立幼稚園協会の副理事長をさせて頂いており、現在は銀の鈴幼稚園という、東玉川ですから、多摩川の河川敷に近い方のところ、世田谷の一番南になりますが、そちらの園長をしております。よろしく申し上げます。この幼児教育・保育推進ビジョンの話の頂いた時に、是非ここは皆様の討議の中に加

わって、世田谷らしい幼児教育や保育の根幹を作っていく、そういう議論に是非加わらせて頂きたいという思いで参加させて頂きました。今、自然の話がありましたが、私どもの園も大きな木や花々がありますが、比較的そういう意味ではグランド型の幼稚園です。先般、砧（きぬた）公園に遠足に行きました。とても天気の良い日で遠足をするにはベストな日和でした。そこで子どもたちや保護者の方もご同行して下さいなのですが、やっぱりああいうフィールドの中に入ると、人間は変わるんだなということをつくづく感じました。私も遊びながらどんどん気持ちが高揚していくのがわかるし、自分たちが人為的に作りだすような、そういう楽しさではなくて、お腹の中から湧き上がってくるような楽しさ、そういうものを母親や父親、子どもたち、先生たちと本当に実感しました。幼児教育というと様々なファクターがありますが、一つ、ああいうフィールドの芝生広場、自然という切り口の中で、共通した感覚が大人も子どもも共にできていくということは、とても大切だと感じました。色々な難しいことはありますが、そういう中に幼児教育の根源はあるのではないかと思いました。先生たちは朝7時から砧公園に場所取りに行き、遠足ピークシーズンでしたので、シートを敷いたりして、こうやったら子どもたち遊べるな、縦割りの時はこんな遊びにしよう、学年別ではこんな遊びにしよう、たくさん遊具やおもちゃを持ち込んで、それはそれでルールがある遊びの中で、皆としたのは楽しかったんですが、それよりも、フリータイムになった時に、子どもたちが草を触る。穴を掘る。虫を掴む。木に登る。転げ回って遊ぶってことの楽しさの方が、やっぱり勝ってしまったという実感を得ました。そういう中で今、文化的風土という話もありましたが、世田谷の私立幼稚園は全部で52園、46園の私学助成園と、こども園が5つ、施設型給付の幼稚園が1園、その中でも大学付属や宗教系の幼稚園もたくさんあります。それぞれが独特で、本当にミニマムを共有できているのかというところは多少体系化されていない部分もまだあるかと思います。そういう仲間たちと意見を交換しながらできているのが、この公益社団法人世田谷区私立幼稚園協会です。是非大きな議論の中に入れて頂き、そういう意味では大事な、大きな方向性というものを作っていくところに、是非ご指導頂きながら参加させて頂きたいと思います。よろしくお祈いします。

委員：世田谷区の民間保育園連盟の副会長をしております。また、世田谷区の中にある国立成育医療研究センターの敷地の中にあります、成育しせい保育園、経営母体は至誠学舎立川という社会福祉法人です。その園長をしております。今、委員のお話にありましたが、この話を頂いた時、是非メンバーとして参加させて頂きたいと申し上げました。そこはすごく同感します。本当に、この世田谷という有数の人口を抱えた、文化的にもいろんな意味で日本の中でも中心の一つとってよいこの地域が、このようなものをやる時に、ここでもしかして何か一つそういうものができ上がっていったときに、それが日本という国に対して与えていく影響というのは非

常に大きいのではないかと思います。私がたまたまそこに存在できていて、その中のメンバーに加われるという、こんな光栄なことではないのではないかと思います次第です。私はやっぱり足元を見つめながらも、大きいところや日本という国のこれからの国民が、どうあるべきなのか、その視点というのを見つめていきたいと思っています。私が幼児教育の世界に入ったのは30になってからです。実は自分の子どもを2人育てていて、それまでは全くこういうことには縁のない世界にいました。上の子どもが幼稚園に入る時に、たまたまモンテッソーリ教育を紹介している本に出会い、それを読んで面白いなと思い、その園を見学に行き、そのままそこに入れてしまいました。入れていきながら色々なことを観察していくと面白いなあと、自分が次の年にはモンテッソーリの教員養成学校に行き資格を取り、次の年にその保育園の職員になりました。それから35年間、ずっとこの道で色々なことを、モンテッソーリを中心として、だけどモンテッソーリの中でやはり起こってくる疑問だとかそういうものは、次にじゃあ、この問題はどうかやったら解決できるのだろうか、色々なことをやりながら、いつの間にか園長になっておりました。自分の与えられた園の環境の中で、色々子どもに実践してきて、本当に色々な手応えをもって、去年はフォーラムで、食育について発表しましたが、そこで実践してきたものが一つまとまったんです。それはやはり0から6の連続性です。0から育てていく、連続性の問題。それから後は一つ一つの生きる技術。子どもが例えばパンツを履くところから始まるような、一つ一つの具体的な技術。これを本当に身に付けていくということ。それが例えば包丁を持って何かを切るとか、いざクッキングするからやりましょうというのではないんです。普段の生活の中で一つ一つの技術を身に付けたことが、いざやる時にはふわっとできていく。その時には基本的に手と目が協応しているであるとか、話を聞くとか、そういう基本的な部分がやはりできるということ。それが5歳児くらいになったときに、総合力としてまとまっていった。ガーデンパーティーというのをやったんですが、3、4、5全体がそれぞれのパーツを担ってやっていくと。この方法論、これはどこにでも応用が利くかと去年確信を持ったので、今年から3年間かけて運動についてこの方法論を用いて、試しをやってみたいと思っていますところ。そんなようなことも含め、本当に実践と、委員が言われたように理念があって。理念がなければダメだと。理念だけでもダメだと。やはり理念と実践というか、そのところがきちんと結合していくということ、これもものすごく共感するところ。そうした中で、最後に委員長のお話の中にあつたことで、私は本当に頷くところはたくさんありました。一つは0歳からの市民教育という言葉。これはもうすごく大きいですね。0歳が市民なんですよ。本当に0歳が市民の権利を持っているって、もうこれは本当に感動する言葉だと思います。そして新しい知性を育てて行くんだ。これが今必要な、今ここで見直して行こうとしているところなんだと思います。そして最後のところで

言われた言葉で、実践的で、要するに自分だけのことを考えるのではなくて、全体の調和を考えると、これをやはり根幹に据えた幼児教育・保育推進ビジョンであって行きたいなと思います。私はモンテッソーリを勉強しながら日本の教育を考えたときに、日本の教育には哲学がないと思います。モンテッソーリの教育にはやはり哲学があり、その哲学に私は惹かれたのだと思います。一つ一つのお仕事に惹かれたわけではないんですね。やはりモンテッソーリの教育に対する哲学、そこに惹かれたなあと35年経って思っています。ぜひその辺のところは世田谷の幼児教育・保育推進ビジョンの中に入ってくると、これは日本のビジョンに繋がる大きな力になるのではないかと考えています。以上です。

委員：世田谷区立小学校 PTA 連合協議会の副会長です。よろしくお願いします。多分皆さん先生方なので、僕はただの保護者だと思っていますので、あまり長く面白いことも喋りませんが、小学校4年生と2年生の男の子が区立の小学校に通っています。去年の3月まで幼稚園の保護者だったので、比較的近い位置にいるかと思い、こちらのお話を頂いた時に、会長が来られないので、私の方が是非、ということで参加する形になりました。世田谷区立小学校のPTAですが、小学校が63校、児童数は3万4千人を超えていて、家庭数にすると2万8千をも超えているような状態の、そういう大きな組織の下支えをしているような団体です。やはりPTAなので、保護者の方と会ってお話をすることが多岐にわたってあるのですが、そういう時に保護者は今どうなっているのかなと、自分的に分析、考えてみると、親御さんが早くから子どもから手を放したがつているのではないかと感じたり、子どもに我慢をさせない親が増えているんじゃないかとか、色んなことを感じています。まあPTAなので勉強会、研修会なりを通して、保護者の方に今学校に行ける幸せだったり、学校に行ける意義だったり。やっぱり世田谷は裕福なので、なかなか伝わらないところをコツコツと伝えていっているのが今の活動です。世小Pという下支えの団体で今年3年目に入って活動を行っていて、世田谷区の児童課さんがやっている外遊びの検討委員会などにもメンバーとして参加しています。今までやってきた経験、自分でイベント系の会社もやっているの、何か子どもたちにできることでこちらの委員会でもお力になればと思い、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

委員：世田谷区立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会の会長の代理で来ました。よろしくお願いします。ものすごく緊張していて、私もこの場にいて良いのかというくらい感じで参加しています。何を話したら良いのか、自分で考えてきたメモを読もうかと思ったのですが、色んな先生方のお話を聞いていると、何だかそこは凄くずれている気がしてしまい、これを言ってどうなのかというのがあるんですけども。結局幼児教育・保育推進ビジョンをどこまで行うのかと思うと、やはり保育園、幼稚園が関わってくると思うので、少しそこのところで感じたことを話したいと思います。うちの子は年長で、区立幼稚園に通っています。3年間、1歳児、2歳児、

3歳児クラスまでは区立の保育園に通っていました。区立の保育園から、私が仕事を辞めたことによって区立の幼稚園に移ったんですが、そのところで子どもが物凄く抵抗を示したんですね。保育園の方がいい、保育園の方がいい、七夕様のお願いにもそれを書くぐらい、保育園がいいって、ずっと言い続けてやっと慣れたのが1年後。つい最近です。それで一番子どもが何を感じてたのかなっていうと、先生との距離感が違うのが、一番子ども自身の中ですごく大きかったみたいなんです。保育園は生活の場なので、先生が色々なことを子どもの気持ちも受け止めてくれて、それこそ抱っこしてくれたり、接触の部分でも色々受け止めてくれていたけれど、やっぱり幼稚園になると子どもの数も多く、指導的な立場で子どもと関わることが多いので、そこのところで子どもも慣れなかったのがあると感じています。何が言いたいのかというと、保育園から小学校に上がる子どもたちと、幼稚園から小学校に上がる子どもたちの中で、やっぱり先生に対する距離感というのが違って、保育園は生活の場であるから、長い子は12時間いるんです。全部自分を出していかないと、正直保育園にいるのはすごい大変な作業になってしまうんですが、幼稚園は午前9時から午後2時までの短い間なので、いい子でいられる時間なのかなと思うんです。そこのところで、小学校に入る時に、自分をどう出していくのか、先生とどう関わって行くのかというところで戸惑いを感じている子が多いのかなというのを、自分の子を見ていて感じました。どういう風に繋がっていくのかは、今後の自分の課題にもしていきたいです。よろしくお願いします。

委員：世田谷保育親の会で事務局をやっています。私も今、区立小学校に2年生の男の子を通わせています。でも保育園が好きで、未だにボランティアですが、親の会というのをやっています。これはあくまでも保護者の会です。二つあります。一つは親の会として参加させていただいているので、親の会の話と、もう一つは個人的な、今、委員がお話ししたような、子育てしている保護者の立場として話したいと思います。一つ目、世田谷保育親の会というのは、今度総会が29回目、歴史がすごくあるんですが、私がそこにに関わりだしてからはまだ4年ぐらいです。「保育園落ちた。日本死ね」のブログの話はよくご存知だと思いますが、あのような感じで、待機児童を経験した保護者が結構多いです。私も7年前に保活で苦労しました。ただそのお母さんたち、お父さんも含めてですが、なかなか忙しくて声をエスカレーションしていく場がないと。そういう意味では、親の会というのは定期的に、月に1度3カ所でブロック会をやっています。世田谷区はすごく広いので、烏山と、太子堂と、尾山台に分けて、それぞれ地域の事務局が集めて、毎月やっています。そこで蓄積されてきた声というのを、1月と8月、保育課の課長さんと係長さんにわざわざ来て頂いて、懇談会を定型化してやっています。なので、日々の生活の、待機児だけではなく、保育園に対しての思いだったり、まさに今日あるような幼児教育、ということも、関心の高い保護者が世田谷区は多いと思うので、そういったことをテ

ーマにした交流会も秋に行っています。また、子ども・子育て支援新制度が昨年度4月から始まりましたが、制度開始前の2014年9月に親の会として、保護者の意見をまとめて、厚労省の方に意見書として挙げました。世田谷区においては、以前から待機児が多いということもあるので保育園をどんどん作っていましたが、質の担保もしていただきたいという声がとても多かったのですが、世田谷区は大丈夫だろうと思いつつも、世田谷区の保坂区長にも意見書を挙げました。あと、親の会として担っているのは、先ほど委員の話にありましたが、「世田谷区保育の質ガイドライン」の策定委員というのをやらせていただきました。ガイドラインについては、私も保護者として勉強になることばかりだったのですが、それを保護者が知らない、本当に意味がないと思いました。とても熱い議論があるのに当事者が知らないことは、勿体ない。私としては、ここもそうなんです、議論の過程や、こういうことが世田谷区で行われているということ、広報していくことも、会としてやっていきたいと思っています。二つ目が、個人的な話ですが、私は子ども・子育て会議の公募委員を最初、やらせていただきました。そこでは待機児童解消に向けた施策がたくさん議論されましたが、やはり世田谷区が素晴らしいのは、質というところを絶対に忘れないところです。厚労省が今回「保育園落ちた。日本死ね」のブログをきっかけに慌てて緊急策を出しましたが、私たちは世田谷区においては大丈夫であろうということも確信しています。なので、逆に言うと厚労省の方に物を申して行けるような世田谷区に、実際なっているかと思えます。保護者として応援のコールを送っています。もう一つは、これは本当に個人的な保護者の立場で、松谷さんと同じ話なんです、保育園に通わせている親というのは、教育に対してちょっとコンプレックスがあるような気がします。私も0歳児から子どもを朝7時半から夜7時15分まで預けてほぼ12時間預けていたということもあって、幼稚園のお母さんたちがとても素敵に見えてしまうんです。「やっぱり、午後は習い事をさせているのかな」とか、そういう焦りみたいなものがあって、逆にそれが加速してしまう事例も多く見ます。実際の話ですが6時15分にお迎えに行った後に、夕食も食べずにそのまま公文に行くとか、良いか悪いか別として、やっぱり教育というところの概念が、すごく私たちの中で違うのではないかと思います。たとえば、それは言葉にもあります。幼保一体化とかいう時に、言葉尻をとらえるのもあれなんです、「教育」と「保育」の一体化という言い方をするので、何となくこども園ができると、教育をする幼稚園と、保育をする保育園が一緒になる。ということは、保育園児は教育されていないのかなあと感じてしまい、そういうものもコンプレックスに繋がってるような気がします。なので保護者会なんかでも、習い事の話とか、保育園にプログラムを求める話はいつも話題にあがる。できれば英語やった方がいいんじゃないとか。あとは前倒し教育ですね。早くひらがなも書けるようにしなければ、と。保育園でもひらがなを習わせて下さいという保護者がたくさんいます。私

はそこはすごく問題だなと思っていますし、習うことが悪いことではないけれど、本当の意味での教育というところが、示せていけたらより一層良いのではないかと考えています。今回の件に関しては、委員長が世田谷のモデルと仰っていましたが、保育課がやられていたガイドラインのように、他の自治体に先んじて、世田谷モデルができれば、すごく頑張りたいと思っています。以上です。

委員：こんばんは。世田谷区立保育園の代表で来ました。上北沢保育園の園長です。よろしく申し上げます。私も今非常に緊張しています。いつも委員長はじめ、研修で講師をなさっている、お話を伺っている側でございますので、このように発言をすることに関しては非常に緊張して、ちょっと震えています。私は区立保育園にずっとおりまして、世田谷区は待機児童が本当に、日本一ですね。それを受け、連日のように、こここのところ、保育園の見学にいらしてる方がたくさんいます。その中で、最近本当に多くなったなと思うのが、まだお子さんがお腹の中にいる状態で、保育園を見学にいらっしゃる方が非常に多くなっています。本当に自分が、子どもが生まれた、お腹の中に入ったっていうその喜びというのが、そのなんといいんでしょう。保活によって、何となく、母親の子どもに対する気持ちというのは一体どうなんだろうなと疑問に思うことがたくさんあります。そして私も保育園の保育士となり、30年以上経っていますが、やっぱり私にとってブレないのは、0歳児保育からやっていますが、母子の愛着、というものの大切さ。それはやっぱりお母さんたちにどんな時代でも伝えて行きたいと、私はそう思っています。その母子の愛着というものも、やはりきちんと確立するということが、この幼児教育のビジョンの中でもとても大切なことじゃないかと思っています。愛着ということから、先ほど委員長が仰ったように0歳児だって自分でハイハイをし、歩き出し、自分の興味のある遊具に対して向かっていく。その意欲、そういうものが生まれてくるんじゃないかと思っています。それを大切に保育するというのが、私たち保育士が、保育の中で大事にしながら育てて行かなければいけないところではないかと思っています。今自己肯定感ということが、非常に保育園の中でも大事で、その自己肯定感が持てるためにはどうしていけば良いだろうかと、そういうことを考えています。その中で、先ほど先生たちが仰ったようにやはり自分の好きな遊びを行う。その姿勢というのが、それによって自分が発見して、そしてそれが凄かったねえって、やっぱり保育者が認める。大人が認めてあげる。そういうことがとても大切ではないかと思っています。今、皆さまがお話しされていたように、就学前に文字が読めなくていいんですか。数字が、10までの概念がわかってなくていいんですか。というような質問をよく親御さんから受けます。でも、それよりも、やっぱりその自己肯定感を高めるために、親御さんにも子どもたちを認めていってあげたい。あげてほしい。そういう風に私は親御さんにお話しすることが多々あります。もう一つ、保育士の問題ですが、先ほどプレーパークで泡の遊びをしている中で、学生たちが安全性や遊

び方等が低下していると、それは現実に保育士たちにも言えることです。子どもたちが積み木遊びとかよくやっているんですね。できるだけ積み木の良さというのを大切にしていこうということで、保育園の中でもやっているんですが、実際に積み木で遊ばせると、保育士が遊べない。保育士がどのようにして遊んでいけば良いかわからないっていう、本当にあるんですね。ただ見ているだけ。そうじゃないよ。自分から率先して遊んで、その遊びを教えていく。こうやってやるんだよっていうのではなく、本当に先生が楽しそうに遊んでるっていう姿を見せることがとても子どもたちには大きな影響を与えていくんだよっていうことを、やはり私たち、保育士にも伝えていかなければいけないんですね。なので、危機管理もそうですが、やはり保育士自身を育てて行くということもとても大切なことだと思っています。その中で、今世田谷のガイドラインがありますが、そのガイドライン、折角素敵なものができました。でもこれをどのように活用していくかということは、やはり園長である私も含め、それをいかに保育士たちにおろしていくか。それは今後の課題だと思っています。そしてもう一つ、区立保育園の在り方がずっと考えられてきましたが、世田谷区は非常に広いですから、5地域あります。この5地域の中でもネットワークというのを、先駆的に始めたのは烏山地域ですが、それが少しずつ他の4地域にも広がってきて、他の保育園、私立保育園も含め、認証保育園、幼稚園もそうですね。やはり顔を見て、相手が誰だかわかるという、そのネットワークの大切さというのは、私も実際にその場にいて、私立の保育園の園長先生とお話ししたり、幼稚園の園長先生や先生たちとお話しする中で、やっぱりこういう関係ってとても大切なんだなと思いました。そしてそのネットワーク化というのが、区立保育園で質ということを大事にしているといいますが、保育の質というものを、皆で考え合うということが、全体の保育の質のレベルアップになるのではないかと考えています。皆さまからの貴重なご意見を聞きながら、私も勉強していきながら、微力ではありますがこの幼児教育のビジョンに多少なりとも尽力していければ良いと思っています。よろしくお願いします。

委員：世田谷区の公立幼稚園園長会の代表、認定こども園多聞幼稚園園長を務めております。よろしくお願いします。本年度から本園は認定こども園になりました。そして公立幼稚園はその他8園あります。こども園になって、今までは幼稚園で、午前9時から午後2時までの保育でしたが、午前7時15分から午後6時15分まで預かれる、そういう施設になり、子どもたちは最初、実を言うととても戸惑って、疲れが出たり、長い預かりになったら「先生、まだお迎えに来ないのかな」という子どもたちがいたりで、私たち自身、勿論教育活動は大事だと思っていますが、前後の保育の時間との兼ね合いを考えながら、どういう風に子どもたちの生活を保っていったら良いのかと、改めて今考え直しているところです。そういう意味では本当にこのような会で、子どもたちの育ちをどのようにしていったら良いのかとい

うことを考えられるというのは、とても大切な機会だと思っています。私は最初、初任の頃は他区にいたのですが、平成 11 年から世田谷区の幼稚園の教員として世田谷でお世話になっています。世田谷に来た時に、なんて恵まれているんだろうと思いました。それは、世田谷区の公立幼稚園は、土の園庭で、木がたくさん茂っていて、実のなる木があって、花も本当にたくさん、季節の花が咲いているということで、探さなくても自然に触れられるという環境にあります。また、ちょっと行けば本当にたくさん公園があって、そこでも貴重な体験ができます。緑地もあって、「先生、オタマジャクシ見つけたから一緒に飼おうよ」とか、「今日ザリガニとってきちゃった」と 10 何匹も連れて来たりとか、そういうこともできる環境にあります。都内では本当になんないんじゃないかと思っています。それから、実を言うと 9 園全部、世田谷区の方でバスを借りて劇団を呼んで、連合観劇会というものもして下さっています。本当に子どもたちが本物のものに触れ、感動したり、逆にそういうものをみて、こんなこと（劇などを）をやってみたいって思える、そういうことに出会わせてもらえる、そういうことを経験させて頂けるというのは、とても素晴らしいことだと思っています。それから、小学校と 8 園は併設なので、校長先生が兼任です。そういう意味では小学校の状況をよく知って、自園の教育活動にいかすことができたり、子どもたちを小学校に連れて行って、小学校の雰囲気だったり先生に親しみをもったり、発表活動を見たり、小学校を知って、小学校に行けるということもできます。それから公立幼稚園にいと、保育園もそばにあって、「ねえねえ先生、保育園と一緒に交流しませんか」と言って下さる保育園も出てくる。そういう意味では、本当に色んなネットワークを生かして教育活動を充実させることができるのかなと思っています。ただ、これが当たり前になってしまっていないかと思えます。教員もそれが当たり前だよ、ということで、意識が薄れてしまっていたり、子どもたちもすごく幸せな中にいるので、何となく過ごしているだけけれど、じゃあ本当に好きなことを貪欲にどれだけ探求しているだろうかといったら、私たちの教育活動もどうしていったらいいのか、先生の意識をもっと高めないといけないかと思うところもたくさんあります。そういう意味では、今回こうやってビジョンを作ることによって、私たち教員も、意識を高めて、子どもたちに、それから保護者にも働きかけていくことのできる、とても大事な良い機会だと思っています。ここで勉強させて頂けることをとても嬉しく思っています。どうぞよろしくをお願いします。

委員：小学校長会代表、山崎小学校の校長です。私、校長として初任の小学校が、今お話あったように幼稚園を併設してしまっていて、中町幼稚園というのですが、6 年間、園長を経験しました。最後の年は園長会長ということで 9 園をまとめる立場になり、その当時、委員長にも何度かご講演頂いて、感銘を受けました。管理職になる前に色々ご指導頂いた、大先輩も委員の中にいらっしゃいます。園長をやると、兼任すると、普通の校長よりも 1.5 倍くらい忙しいんですが、園長手当は 0 でした。ただ

お金に換えられない、非常に貴重な経験を園長6年間させてもらい、私は得したなと思っています。いっぱい子どもたちから元気をもたらえるし、反応が物凄くダイレクトなので、毎月1回のお誕生日会、そこで子どもたちに喜んでもらおうと思って歌を歌ったり、手品やったり、クイズ出したりして、1週間ぐらい前から眠れないんですけど、受けるときはものすごく受ける。ダメな時はもの見事にダメなんです。ほんっとに子どもたちの反応というのはね。だから私はよく中学の校長先生たちに、なかなか縁がないんですが、是非1回は行った方がいいよと。貴方の教育観変わるからと。なかなか時間がなくて中学の校長先生たち幼稚園行けないんですけどね。これからは是非とも1年に1回くらいは足を運んで、御覧になったら良いんじゃないかと。自分自身の教育観に必ず影響を与えていると思っています。ロバート・フルガムでしょうか。「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」私この言葉とっても大好きで、小学校もそうなんですが、幼児教育というのはやっぱり人生の人間形成の土台作りの時であり、基礎工事の時であって、ここは手抜きができないところだと思うんです。その後しっかり土台作って建物たてれば、後は外装はどうでもいいとは言わないけれど。土台の部分をしっかり築くというのは、これからの幼児教育が一番大事だというのがとてもよく分かります。土台作り、基礎工事のところをしっかりとやるのがとても大事なことだと思っています。それからプレーパーク、中町小学校の校長時代に出張プレーパークというんでしょうか。3年くらい来てもらい、楽しませてもらいました。最初はハラハラドキドキ、子どもたち泥んこになるし、裸足で走り回るし、水鉄砲で追いかけてまわして、辺りかまわず皆ずぶ濡れにさせられるし、火は使うし。それから色々な木材があって、1年生、2年生の女の子たちがハラハラする中でノコギリを引いたり、ハンマーで釘を打って何か作ったり、最初の年ダメでした。校長先生代わるって言って、手を出してしまったんですが、怒られました。2年3年経つ内に、段々こちらもゆとりをもって子どもたちの様子を見られるようになったんですが、こちらプレーパークで成長させてもらいました。随分、自分自身がすごく管理的になっているなど。本当は子どもというのは大人もそうだけど、少しの不便、少しの不自由、少しの困難、そういうものを味わって、それを克服していくことによって人間育っていくはずなのに、どうもいつの間にか子どもを見る目が、過保護になっている。社会的な色々な要因があるんだけど、もう一回そこを考え直さなければいけないのではないかと思います。世田谷区は新しいビジョンを打ち立てるということで、予算を何とかつけて頂けるということで。それは子どもたちが本来持っている力を引き出す、そういう施策を立てることが大事なのではないか。子どもの持っている可能性、本来持っている可能性を引き出す、そういう教育なのかなと思っています。この会に参加させて頂き、私自身も勉強しながらお役に立てればと思っています。よろしく願います。

委員：区役所の子ども・若者部長です。よろしくお願いします。子ども・若者部が所管するのは、区立の保育園と私立の保育園とこども園、私立幼稚園の他にプレーパークだとか在宅の子育て支援などを所管しています。保育園ですと、今話題になるのは量的な部分で、やっぱり待機児が一番話題になっています。今日区長の記者会見をしましたが、転入や出生が多いのはとても嬉しいことなのですが、昨年よりも待機児数が増えてしまい、入園をご希望されている子育て家庭の皆様には非常にご迷惑をおかけしております。量的拡大、これは絶対やらなければならないことですが、同時に質の確保というのを大切にしまして、保育の質のガイドラインというものを策定し、保育者と保護者の方とも共有しながら高めて行こうという取り組みをしています。量とともに質の確保、これは区の方針として進めていきたいと思っています。また、私立幼稚園は、委員からご紹介頂きましたが、独自・独特の様々な建学の精神で、実践して頂いていて、多くのご家庭に支持されています。その他に施設だけでなく、プレーパークだとか自主保育の活動も色々あり、そういう状況だと認識しています。こうした中で今まで保育園、幼稚園、家庭教育とか自主保育も含めてですが、多様な幼児教育・保育を意見交換するような場はなかったと思います。今日も少し聞かせて頂いただけで、専門の先生のご見識とか保護者の方のリアルなご意見や見方を聞かせて頂けました。施設や場所を超えた、幼児教育・保育の通底するような、哲学というお言葉も頂きましたが、哲学、在り方、実践の方向性を、是非整理できればと思っています。勉強させていただきますのでよろしくお願いします。

委員：教育委員会事務局の教育政策部長です。よろしくお願いします。5年前保育課長をやっていました。当時色々お世話になった先生方、ずっとお世話になっていた親の会の方、認定こども園の評価だとか、様々な形でお世話になった記憶があり、非常に懐かしいです。今日は教育委員会ということで、立場を変えていますが、こうやってご縁あって時間を共有できて嬉しいと思っています。教育の側から見るとよく言うのが知育、徳育、体育だと。というような言い方があるわけです。小学校1年から中学3年まで年齢別に教育をやっているのが基本です。こういっただけでも何となく伝わるとは思いますが、非常に賽の目になってるんです。ある意味においては非常に効率的に教育というものを伝えて行くプロセスと仕組みにはなっていると思いますが、ただ、これから求められているのは本当にそうかなと。特にその幼児教育といった時に、0歳から小学校入るまでの発達段階って、非常に違うと思うんです。同じ1歳でも全然違うという状況があります。モンテッソーリ教育という懐かしい話も出てきましたが、そういったところをちゃんと捉えてやっていかないと、要するに教育の視点だけで押し切って行ってしまうのは非常に間違えたことをやりそうだと思います。先ほど保育のネットワークの話もありましたが、ある先生が、実はこれこそが全ての解決策だとまで仰ったんですね。当時そんなことあるのかなと、

正しい方向だとは思ったんですが、そこまでかと思っていたんです。ただ今、段々何年か経って行く中で、あながち嘘じゃないなと思っています。それは何故かとは簡単に語り切れないんですが、総合性というんでしょうか。教科毎ってことではない形でのアプローチというのが今問われている。いずれにせよそういった価値観を共有化して、具体的な施策まで落とし込んでいくというのが執行機関としての責任だと思っていますので、有効にこの時間を使いたいと思っています。最後に一つ、ほっとスクールに先日行ってきたんですね。あそこは学年別にやっている訳じゃないんです。異年齢で。そうすると、それぞれ全然違うんですね。元々いじめられたり、家庭でうまくいってなくて、という子が来ている。痛みを知っているアドバンテージというのがあるんですが、それだけじゃなく異年齢といったところ、明らかに違うから許し合えるみたいなものがあると思ったんです。さっき言ったような仕組みの教育の限界性と合わせて、一つのキーワードになるかと思っています。以上です。

委員：教育委員会事務局の教育次長です。よろしくお願いします。事務局側のまとめ役になります。先ほどの理念と実践、理念がないと実践も上手くいかないというご指摘を頂いて、この策定委員会で大きな理念といますか考え方であるとか、方向性をご議論頂いて、ある程度具体的なアイデアなんかも頂けるのかなと思っていますが、それを来年度以降、具体的に、役所の仕事としてまとめ上げていく、事務方の方の責任者です。よろしくお願いします。きっかけは先ほど事務局からも説明しましたが、このビジョン策定のきっかけは、並行して新教育センターの整備の検討会も、昨年からさせて頂いています。今、弦巻にある中央図書館と併設されている教育センターを、今の若林小学校の跡地に新設をして、拡充をしよう。それで、先生方の研修、研究であるとか学校支援の機能を拡充しよう。その中で幼児教育センター機能を整備しようということ、昨年から検討しています。幼児教育って大切だよ、重要だよということで、やってきた訳ですが、じゃあそこで何やるのみたいなところが、我々振り返った時にですね。まだオール世田谷といいですか。この世田谷区として、今日ご参加頂いた皆さまと共通的な認識はあるんだろうかというところに立ち返りまして、改めてこういった専門の先生方にご参加頂いて、改めてビジョンを作ろうということになった経緯がございます。色んなご議論頂きながら、具体的に、私立幼稚園・保育園、区立幼稚園・保育園、また小学校との連携なんかも具体策を検討させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

副委員長：先ほどから話にあるように、新教育センターの中で6本の柱の一つという形で捉えて、そこそこ色んな勉強して参りましたが、やっぱり大きく捉えて行こうという話をして、事務方の色々資料を作ってくる度に、大山鳴動、鼠一匹という結果に終わらせるのではないということを、何度も、申し上げます。これだけ各界の

方々にお集まり頂いて、これが、委員長が仰るように第一線の自治体としての世田谷区が、何ができるのか。どういう力があるのか、そこが最終的に問われるなと思っています。理念は色んなところで語られていますので、世田谷らしく、それなりの形ができると思うんですが、その理念に沿った世田谷らしい、具体的なものができるかどうか。これが一つ問われるかなと思っています。是非できそうにないよね、というようなことでも、色んな意見を出し合って、第一線の自治体でやれなくても何か、これを出して行こうみたいな世田谷から発信していこう、みたいなことになればいいなと思いますので、ご協力頂きたいと思っております。個人的ですが、今から10何年前、子どもたちが学童クラブに行っていました。その頃の学童クラブは基本的に外にありました。児童館とか、他の施設とか、福祉施設とかに入っていて、学校にはBOPがありました。そこから、BOPと学童を統合しようということを考えて取り組みまして、今日に至っております。その頃はとてどもとんでもないといわれ、自分自身を壊したこともありましたが、あの頃は、それは実現不可能だとも思っていませんでした。そういう経験を踏まえると、この皆さんとの意見の中からできないってことはないだろうなと思っていますので、最終的には予算かなと思っています。是非そんなことできないよね、ということで発言を辞めるということではなく、自由に意見交換をして、然るべきものを作っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

委員長：ありがとうございました。とって色んな角度から色んな意見が出されて、副委員長だけはちょっと、大変なことで段々滅入ってきたようですが、僕は聞いていて段々楽しくなってきました。もうほとんど時間はないんですが、今他の方のご意見だとかお聞きになって、もうちょっと追加して発言したいとか、触発されてこういうことを今言っておきたいということがございましたら、もう少しだけ願います。皆さん緊張して、大丈夫ですか。まあまたこれから議論がありますからね。本当に良いですか。ないようでしたら、一応こう、私はまとめることはできないんですが、大事な論点が、これから詰めていかないといけないことが幾つも出てきたなということで、後で事務局で論点を整理して頂きたいと思います。現場の感覚で、新制度が始まっているのはご存知だと思いますが、新制度の一つの弱点は、私立の幼稚園を、これまでは基本的に東京都が管轄していました。それを、新制度は各基礎自治体が管轄ごとに移していくわけです。だから今日私立幼稚園の代表が委員として来て頂いたのはとても大事なことで、基礎自治体に移すんですが、各基礎自治体はこれまで私立幼稚園との関係をあまり作っていない訳です。どこをどうサポートしていくのか。他の区分は大体移るのに東京都でしたから。新しい大きなチャレンジになる訳です。理念的には自治体に近いところがきちんと状況を掴み、管理するのはとても良いことですが、これまで全く私立幼稚園のことについて分かる人さえいないというような行政の中で、その実態をつかみながら更に先に進むための支

援というのは、何ができるのか。あまり十分な議論がされないまま新制度がスタートしてしまっています。自治体によってはこれまで東京都から出てきたようなお金が、下に移ることによって出て来なくなることもあちこちで起こっています。そういうことを含めて、一つひとつ克服していかなければならないですが、ただ自治体としては、これはチャンスだと。これまで関係のなかった私立幼稚園と是非密接に連絡を取りながら公立の幼稚園、保育園と一緒にあって世田谷の子どもたちのために、自分たちの持っているそれぞれのメリットを大事に出し合いながら、新しいハーモニーを作っていくという。そういうことができれば、実はそちらがやっぱり良いと。今はそういう時の生みの大変さの段階で、そういうことがあるから私立幼稚園はどうせ自治体によっては私たちのことはわかってもらえないんだということで、あんまり積極的に参加しないところも実はあります。だけど今日来てくださって、是非これから本当に言いたいことを言い、皆がそれを受け止めながら私立幼稚園、公立幼稚園、保育園全体として協力し合いながら、それが上手にやってるところだぞというのが、世田谷だというようなのを作れるといいなと、夢を感じました。ここは論点もたくさん出てくると思いますけどね。それから幼稚園と保育園の、やっぱりこれまで十分交流がなかったっていう中で、ちょっとした温度差。子どもに対する距離感とか、子どもが幼稚園・保育園にそれぞれ持っている距離感というのが微妙に違うということで、それは当然、長時間短時間あって当然なんですけど、でもそういう視点からもう一回、それぞれの持っている良さというものを、相互利用しながらやっていると、幼稚園は保育園のこと、保育園は幼稚園のことをもっと知ることによって、両方の良いところを学び合える。それがとても、可能性があるとは私は思って聞いていました。その辺を是非、譲らないで論点として出し続けて頂きたいと改めて思いました。メモに、これはいい論点だなというのがたくさんあります。今の国の施策でも、環境が子どもを育てるんだということで、環境をどう創造していくのか。環境の教育といわれていますが、その環境というのは、園の中に、例えば部屋の中に何が置いてあるかとか、園の中にちゃんとした物があるかとか、そういう環境もそうですが、一番大きな環境は、やっぱりそこで接している大人がどういう気持ちで子どもたちに接しているか。その善意的な環境というのがやっぱり子どもには決定的に大きいですし、ちょっと園から出た時に、例えばある区の児童公園で遊んでいた子どもたちの声が煩いということでおばあちゃんが毎日区役所に訴えていたら、区役所はどうとうある措置をしたんですが、この公園で子どもたちは声を出して遊んではいけませんという立て看板を出した訳ですね。そういう風なことがあって、NHKのクローズアップ現代でやっていましたが、おばあちゃんは、なんで言ったかという、とにかく煩いからだと。でも昔はどうだったんですかと聞いたら、昔はそんなに煩いと思わなかったわよと。どうしてですかと聞いたら、だって昔はどこの誰が遊んでいるか分かっていたもの。と答えていた。これが本当

の問題だと思うんですね。地域が子どもを、本当に暖かく見守っていくというか、「いいわね、子どもって」と誰もが思ってくれるような地域にならないと、本当に子育てに優しいまちにならないです。あるところだけは良いけど、ちょっと一歩出たらもう身を擦り減らすような気持ちでいかないといけないと、そういう地域ではない。その点で、世田谷は冒険遊び場なども全国で先駆けて作って、やっぱり子どもを育てるというのはそういう意味での、地域全体が環境として支えていかなければいけないんだと、一番最初に取り組んだところもあります。そういう意味でこのビジョンは、環境といっても世田谷全体が子どもを暖かく支える環境になっていかなければいけないことを含んで、作っていけるかなあと。思って。もっと色々出して頂きましたが、モンテッソーリも出てきましたが、私たちともちょっと関わっていますが、やはり日本全体が、あるいは世界全体が保育・幼児教育が大事なんだよねと、少しずつなってくると、今まであんまり聞かなくなっていたモンテッソーリだとかが、もう1回出てくる。これはとても大事なことだと思います。今度大事な本がたくさん出るようになります。哲学と仰いましたね。モンテッソーリというのは小学校以降の学校みたいなものに、すごく良いんです。幼児教育だと思っている人が多いですが、宇宙から教育していくということ、やっぱり自分はどういうところに生きて住んでいるのかということ、体で感じさせてもらう場合ありますよね。オランダなんか市民が200人の子どもが来るとわかったら自由に学校を作れますが、それでもやっぱり圧倒的に多いのはモンテッソーリですね。そういうことで、世田谷が、まあそこは簡単にはいかないですが、本当に子どもたちが育つのはこういうことじゃないか。人間が上手に共生していくのはこういうことじゃないかと、哲学があるような保育・教育というのをどう作って行くのかということ、皆で議論し合えるそういう場ができた。今度センターができるけれど、センターではそんなことが皆で議論できるというのと改めて感じたんですが。そういうことを色々出して頂いて、是非これからの議論の参考視点、論点として、整理しておいて頂きたいと思います。時間がありませんのでありがとうございました。議題の中に、アンケートのことについて事務局が調整していますので、それについてご説明お願いできますか。

5 区民アンケート（案）について

事務局：はい。それでは区民アンケート案について説明致します。資料5を御覧下さい。ビジョンの策定にあたりまして、未就学児の保護者や小学校1、2年生の保護者、幼稚園・保育園・小学校などに教育・保育や育ちの現状、あるいは保幼小の連携の現状などについてのアンケートを実施する予定です。今回事前に未定稿ではありますが送らせて頂いております。そのアンケートについて、簡単に説明をします。未就学児の保護者については0から5歳児の保護者それぞれ1,000名、合計6,000名

を無作為抽出して、育児状況や子どもの生活の状況、育児に対する考え方などについて、調査する予定です。幼稚園・保育園などの保育施設については、保育内容や教職員の資質向上、保幼小の連携などについて調査をする予定です。また区立小学校1、2年生の全保護者を今予定していますが、今年度、あるいは昨年度小学校1年生の担任教員、それから区立小学校の全校長に対し、小学校入学時の児童の学校での状況、幼稚園・保育園等から小学校への接続の状況等を把握する為の調査を実施したいと考えています。調査時期については、準備が整い次第、6月から7月にかけて実施して行きたいと考えています。小学校1年生の保護者と担任については、入学時期の状況からどのように状況が変化しているのかを把握するために、夏休み明けの9月にもほぼ同じような内容で、調査を再度かけていきたいと考えています。これらのアンケート調査の結果を踏まえて、小学校の教員や幼稚園教員、保育士等へのヒアリングも、今度は生で声を聞いて行きたいと考えています。皆様方からのご意見等がありましたら、この場でお願ひしたいのと、かなり量がありますので、今日は机上に意見シートをお配りしています。今日またご意見等伺いながら、お気付きの点やご意見等がありましたら、こちらに記入して頂いて、6月7日までにこちらの事務局の幼児教育・保育推進担当課にご提出をして頂ければと思います。アンケートについては、できれば次回の委員会に速報値は出せればお示ししたいと考えています。また今日これから皆様方のご意見等を少し頂いて、その内容についても踏まえた上で、最終的なものについては事務局に一任を頂ければと考えています。

委員：少し気になったところがあります。それは我々の領域の技術的な問題のところに関わると思うのですが、例えば1番の未就学児のいる家庭の現状調査の7ページ。あなたは家庭でどのようなことに力を入れて、お子さんを育てていますかの に、芸術的な才能を伸ばすことってというのがありますが、他の項目と並べてみるとちょっとこれだけ重いのではないのでしょうか。こうではなく、普通は創造力を伸ばすこと、ではないかと思います。他のところにも芸術的な才能を伸ばすとか、同じようなことが出てきているのです。逆に、この創造力というのはかなり今、重要なポイントになっているのですが、これを質問していないところが結構あります。ちょっとそこはご検討頂きたいです。例えば音楽に熱心で、なんとかメソッドとか色々ありますから、それを3歳児くらいからガンガンやっているようなご家庭はそうかもしれませんが、一般的には3歳児に芸術鑑賞をさせようとは思わないです。粘土で遊んだり、そういったことで創造力を、という方が親御さんにも分かりやすいし、恐らく保育園・幼稚園の先生方も創造力といったほうが身近に感じられると思います。そこを少し変更お願ひしたいです。

委員長：検討して頂けますか。はい。どうぞ他の方。ご意見ございましたら。

委員：幼児教育のところの問7、2ページですね。3歳児以上の保育で重視していることは何ですかという質問があって、は5つまでと限定がかかっていますよね。これ

どうやって5つ選ぶんだろうと思ったんです。項目の中で3番の子どもが保育者の話を聞くことと、4番の他の子どもの話を聞くことって、これ両方とも大事なのに、分けている理由はなんだろうとか。7番の子どもが自分の力で何かを成し遂げること、何かというよりも、最後までやり遂げることとか。10番の子どもが自然に触れ合うこと、なんか他のところとちょっとこれは。触れ合うだけで良いんだろうとか。いくつかその他にもあるので、また後でお話ししたいと思います。後、問8の保育者に求められるスキル。スキルとは何だと思いますかというところの中に、先ほど委員長がお話しされていた、子どもの良さや可能性を伸ばすということが入っていないなとか。それから自己発揮できるということも、これも大事な保育のスキルになってくるので、自己発揮できるような援助の仕方というようなこと。あと3番目の子どもが求めることを理解するとありますが、求めることを理解するんですか。子どもの内面を理解することが大事なんではないでしょうかという風に、いくつかその他にもありますので、メールでお伝えしたいと思います。

委員長：一言で、アンケートというのは微妙にこう、違って来ますのでね。本当に言葉は慎重に。実際には一回予備調査をやってやらなければいけないですが、そんなにゆとりがなければ、今みたいに丁寧にやっぱり意見を頂いて、やらなければいけないですね。まだ私たちも丁寧に読んでいないと思いますので、見て、ご意見はこのメールでも大丈夫ですよ。他に意見は。子どもがね、やりたがっていることを理解する。子どもの内面を理解する。かなり哲学的ですね。やりたがってるってのは、お前こんなことしたがるのか、なんでこの子はやりたがってるのかってこと含めて理解しないと本当は対応できないですね。その辺りいかがですか。いいですか。じゃあ皆さんにお願いします。これちょっと読んで頂いて、この文言が気になるとか、その通り反映できるかは分かりません。実際には事務局の方で改めて、もう一回この頂いた意見を元に、少し整理して頂いて。また集まることはできませんので、その段階では事務局にお任せしたいと思いますけど。その前に意見だけは言わせて頂きたいと思います。よろしいですか。

それでは最終的なアンケートの内容は事務局に一任してやって頂きたいと思います。今日は初めてでしたが、なかなか楽しくなりそうな会になりました。いい会にしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

以上